

発行所
氷川神社社務所

日本唯一
気象神社

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南4-44-19

電話 03-3314-4147

FAX 03-3315-0034

氷川神社
公式HP



気象神社
公式HP



高円寺氷川神社 公式X
@koenji_hikawa



花園神社大酉祭
正式参拝を終えて

正式参拝後に参加者で記念撮影



熊手商の掛け声も賑やかで、境内は活気で溢れていました

11月24日(月祝) 高円寺氷川神社一行(氏子青年会)で花園神社(新宿)を訪問しました。花園神社と高円寺氷川神社の先代宮司同士が懇意にしてきたことから、毎年この時期の花園神社の年中行事である「大酉祭」に訪問して正式参拝をさせて戴いております。

毎年、氏子青年会と神社関係者で訪問していますが、数十万人が訪れる中で、拝殿に案内され祝詞をあげて戴くことは限りなく特別で素晴らしい経験です。毎年経験していることとはいえ、毎回背筋が引き締まり、気持ちを一段落することが出来ます。

我々一行を受け入れて戴いた花園神社様に対して、改めて感謝の気持ちを抱きました。花園神社の深いご協力に感謝の気持ちを忘れずに、来年以降も定期的に続くことを祈念します。



花園神社酉の市

花園神社の酉の市は、明治時代に始まりました。酉の市は、大鳥神社の祭神である日本武尊が東夷征伐の戦勝祈願をし、帰還の時に御礼参りをしたことになみ、日本武尊の命日である11月の酉の日に行われるようになりました。商売繁盛の熊手を売る露店商のにぎやかな声は、師走を迎える街に欠かせない風物詩。毎年60万人もの人が訪れる市の日には花園神社名物の見世物小屋を観るチャンスでもあります。

令和8年 厄年年齢早見表(数え年によるもの)

	前厄	本厄	後厄
男性の厄年	24才 2003年 平成15年生 ひつじ	25才 2002年 平成14年生 うま	26才 2001年 平成13年生 へび
	41才 1986年 昭和61年生 とら	42才 1985年 昭和60年生 うし	43才 1984年 昭和59年生 ねずみ
	60才 1967年 昭和42年生 ひつじ	61才 1966年 昭和41年生 うま	62才 1965年 昭和40年生 へび

	前厄	本厄	後厄
女性の厄年	18才 2009年 平成21年生 うし	19才 2008年 平成20年生 ねずみ	20才 2007年 平成19年生 いのしし
	32才 1995年 平成7年生 いのしし	33才 1994年 平成6年生 いぬ	34才 1993年 平成5年生 とり
	36才 1991年 平成3年生 ひつじ	37才 1990年 平成2年生 うま	38才 1989年 昭和64年/平成元年 へび
	60才 1967年 昭和42年生 ひつじ	61才 1966年 昭和41年生 うま	62才 1965年 昭和40年生 へび

◆数え年とは、満年齢に誕生日前には二才、誕生日後には一才を加えた年です。

◆ご参拝にあたり◆

特に正月三が日は多くの参拝者が見込まれますので、できるだけ混雑をお避けしてお越しください。



《開門時間》

12月31日(水)18時～1月1日(木)19時
1月2日(金)～1月5日(月)：7時～18時
1月6日(火)以降：7時～17時

《社務所受付時間(御守・御朱印など)》

1月1日(木)：0時～18時
1月2日(金)～1月5日(月)：9時～17時
1月6日(火)以降：9時～16時

※状況により受付時間の変更となることもあります。
※詳しくは公式サイト、公式ツイッターでご確認
戴くか、社務所へお問い合わせ下さい。

◆お焚き上げ神事

31日(水) 23時45分～

◆お神酒・甘酒

是非お求めになってください。
※数に限りがあります



新年のお参りは氷川神社へ

令和八年初詣のご案内

令和7年の初詣の様子



新年ご祈祷のご案内



年末年始のお焚き上げ
についてお願い

年末から注連縄、破魔矢、神札、お守りなどのお焚き上げを承ります。納札箱は社務所玄関付近に設置しますので、そちらにお納めください。また鈴など不燃物が付着している授与品は外してお納めください。陶器などの不燃物も受け付けかねます。
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

年末の注連縄販売

◆日時
12月26日(金)
12月27日(土)
12月28日(日)
いずれも11～16時
※時間は前後することあります
◆場所
氷川神社鳥居付近
※数に限りがあり、なくなり次第終了となります。
(初日だけで終わることもあります)

以前は年末になると高円寺の街には臨時の注連縄販売所が数か所ありましたが、時代の変遷と共に徐々になくなってしまいました。
2019年より本社神輿宮頭を務めて戴いている(有)上野工務店・上野様に氷川神社境内に臨時販売所を設営して戴き、注連縄を販売しております。皆様の御越しをお待ちしております。

注連縄の販売

森光子がでんぐり返しをすることで有名だった、舞台『放浪記』は、高円寺の近郊、妙法寺裏手にあった借家で、昭和3年に林芙美子によって書かれた。芙美子は私生児として産まれ、幼少期は行商を営む実母義父とともに、各地を転々として暮らした「今の私の父は養父である。(中略)実直過ぎるほどの小心さと、アブノーマルな山つ気とで、人生の半分は苦勞で埋もれていた人だ」夫婦となれば、夫の苦勞を背負うのは、妻の小さな背中だ。芙美子はその母の背を見ながら大きくなり、そしていつのまにか母と同じように負の荷物を、140㎏しかない小柄な身体の背に背負って生きていく。

芙美子の文才に目を付けた恩師の進めもあり、身分不相応な、尾道私立女学校に進学する。若いころの芙美子の写真を見ると、眼鏡姿の可憐な顔立ちが目を引き、尾道の海沿いにあつた、夕陽のなかのうずしお橋にもたれかかり、本を読みふける彼女に声をかけたのは、旧制中学に通う岡野軍一。岡野家は、ミカン畑を手広く経営する、尾道でも有数の素封家だった。戦争前の、地方都市では考えられないような恋愛を、二人は堂々と続けていく。岡野の両親は身分違いの交際には猛反対し、息子を明治大学に入学させ、東京に住まわせることで、二人の間を引き裂こうとするが、結婚を願う芙美子も上京し、二人は同棲することになる。しかし、岡野は、卒業後に両親が望む相手といっしょになる。芙美子が生涯背負うことになる、悲恋のつらなりは、この初恋の破局から始まったと言われている。作家の家の女中、菓の見本整理、セルロイド工場の女工、牛鍋屋の女中、産婆助手見習い、新聞記者、貿易店の事務員、新聞の広告受付、カフェの女給。『放浪記』に書かれている転々と変わる「私」がたつた仕事の数々。私生活では、新劇俳優や詩人との同棲生活を経て、大正15年の年末に画学生の手塚緑敏と結婚する。住んだところは、高円寺の青梅街道に

あつた西武鉄道の車庫の裏、現在の関東バスの車庫がそれにあたる。そこから、妙法寺の裏にあつたバラックの貸家に移り住む。この家は、計画倒れに終わった浅加園という遊園地を建設するための、職人用に用意されたものだった。当時の生活の様子を、のちに『清貧の書』という小説に書いている。

「躑躅(つづじ)はもちろん、うつぎやさみの花や桐の木が、家の周囲を取り巻いていた」という森のような広い土地に「長いこと、人間が住まなかつたからであろう、部屋の中は馬糞紙のように、ボコボコした古くさい匂いがこもつていて」とある。馬糞紙とは、わら半紙のこと、今はそのナチュラルな風合いが好まれ、若い人に人気だという。貧しさの象徴のような紙が、時代によって受け取られ方が変化するというのは、なんとも皮肉なことだ。

この家で芙美子は出世作『放浪記』を書き始める。それまでの彼女が書いたものは、詩や童話、短歌など、短いものが多い。『放浪記』も小説というよりは、日記の羅列という形式になっている。時が経つほどに、一日に書かれる文字量が増え、内容も小説の形になっていく。

芙美子が付き合つてきた文学者は、本駒込にあつた南天堂書店に群れ集まつていたアナキスト詩人たちで、小説のような物語を書く作家は見当たらない。結婚相手の手塚は、絵描きとして、舞台の背景などを書く仕事をしていた。芙美子は手塚との生活を通して、彼が語る芝居の筋や、持つてくる脚本などから、少しづつ物語を書くことを学んだのではないかと、私は推測している。

処女作はその作家のすべてが詰まつている、という言葉がある。『放浪記』は、世界中を旅する彼女の人生を予言するような「私は宿命的に放浪者である。私は古里をもたない」という有名な書き出しで幕を開ける。朝鮮、満州を経て、シベリア鉄道を乗り継いで向か



ったパリやロンドンへの一人旅。戦中は軍のベン部隊の役員として、南京、武漢に向かい、ジャワ、スマトラ、シンガポールには長い時間留まり、文章を書き内地に送った。戦後も鹿児島から船で四日かけて屋久島に渡る。昭和26年に47歳という若さで急逝する。生前に色紙を頼まれると「花の命は短くて苦しみことのみ多かりき」と好んで書いたという。

林芙美子の書くものは、今、若い女性に好んで読まれている。杉並に住む作家角田光代が芙美子の旅行記を読み「驚いた。まるきり現代のバックパッカーではないか」と驚きをこめ書いている。女性がひとりで生きていくのが憚られた時代に、いろいろな想いを込めながらも、好きな場所へ旅をし、失敗はしながらも男たちと恋を重ね、腕いっぱい文章を書き、自分好みの家を建て、死んでいったその生き方に多くの女性が共感するのだと思う。

下落合にある瀟洒な家は、戦災に会うことなく、今は林芙美子記念館となり、一般公開されている。



林芙美子亭(東京都新宿区中井)

お知らせ

第64回気象予報士試験
合格者お祝い会

11月1日(土)第64回気象予報士試験合格者お祝い会を気象神社で開催しました。気象神社では夢☆カフェ主催の気象予報士試験の通学講座を開講していますが、第64回気象予報士試験(令和7年8月)でも合格者を送り出すことができました。合格率が45%と超難関の試験ですが、受講生の努力と頑張り、気象神社の神様も見守ってくださったことと思います。合格者のこれからのご活躍を心より祈念申し上げます。

また現在では第65回気象予報士試験(令和8年1月)に向けて毎週土日は各種講座で教室はフル稼働です。1人でも多くの皆様の勉強をサポートしていきたいと思っています。

令和7年12月の御朱印



今月の御朱印

【氷川神社】

- ・師走の三つ巴
- ・一年の疲れをいやすへびさん

【気象神社】

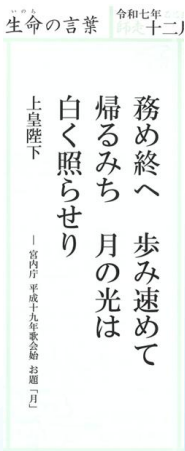
- ・お風呂を楽しむへびさん
- ・あたたかいみかん風呂
- ※公式サイトに過去の御朱印を掲載してますので、ご覧ください。



今月の花手水



いのち
生命の言葉(令和七年十二月)



上皇陛下
宮殿で認証官任命式をお済ませになり御所へお帰りになる時の情景をお詠みになった御製である

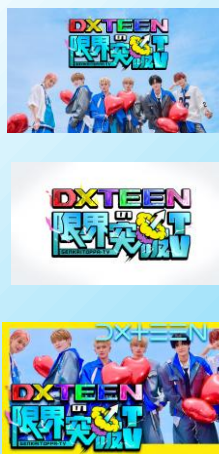
◆ご祈禱のご案内
氷川神社では各種祈禱を承っておりますので、お気軽に神社までお問い合わせ下さい。
また気象神社では晴天祈願をはじめとする各種祈願を承っております。(会社、法人、団体様のみが対象となります)

「DX TEENの

限界突破TV」に
気象神社が登場予定

12月9日(火)・23日(火)日
本テレビ「DX TEENの限界突破TV」(24時59分〜25時29分)に気象神社が登場予定です。お時間があれば、ご覧ください。

※放送予定日や放送内容が変更になる可能性もあります



今月の盆栽

氏子地域の盆栽屋ラビアデッソ様が毎月盆栽を神社に届けてくれています。素敵な盆栽を毎月紹介していきます。



編集後記

ひかわ237号をお送りしました。大陸の高気圧が優勢となり、日本付近は等圧線が南北に縞状となる「西高東低」型」と気圧配置となり、本州日本海側に大雪をもたらしています。

第4回お天気フェスも無事に開催できました。少しずつですが「高円寺をお天気の町に」という目標に向けて進むことができました。

年末が迫ってきました。新年に向けて準備を進めていきます。皆様もよいお年をお迎えください。